

第5回 21世紀ぐんま教育賞

みやま未来賞（一般県民の部）：優秀賞

子ども会育成会活動を通して

～～～青健推モデル支部に指定されて～～～



太田市新田地区 下村田子ども会育成会

子ども会育成会活動を通して

～～～青健推モデル支部に指定されて～～～

太田市新田地区 下村田子ども会育成会

◎ 松 井 卓 朗
檜 原 康 夫
柿 沼 雄 一
成 塚 一 紘

～～～ はじめに ～～～

現在の時代背景として、少子高齢化・核家族化が進み、ゆとり教育と言いつつ塾通いが進行している。また、パソコン等の普及により、ゲーム・インターネットなどにより、地域の人間関係が希薄になりつつある。

我々の住む地区は、純農村水田地帯で、かつては盛んであった養蚕が衰退し、米麦の価格低迷で活気を失う中、唯一旧新田町におけるイチゴの産地として、40年間、名を知られてきた。しかしながら、少子高齢化により、担い手不足でかげりが見え始めてきている。

地区の人口は、144戸・467人で、うち小中学生は43人（全体の9.2%）、65歳以上の方は146人（全体の31.2%）となっている。特に、子どもの数が少ない地区で、団体競技への参加が種目によっては難しい状況にある。

未来を担う青少年に期待が高まっている今、青少年健全育成推進会議の2006年度モデル地区指定を受けられたことは、幸運なことと思っている。

青少年の凶悪犯罪も度々報道されている今日であるが、まず、小さいうちから「良いことをすれば地域のみんなから褒められ、悪いことをすれば地域の大人たちから注意を受ける」という意識を育てていくことが大切であると考えている。

～～～ 活動概要 ～～～

子どもたちに、社会生活のルールや人付き合いを教えるのは、地区の活動に、特に子ども会育成会の行事に参加させるのが近道だと考えられる。

子どもや高齢者も含めた地域住民の交流を盛んにし、地域住民の誰もが互いに知り合いという関係を築いていくことが理想だと考えられる。そのために、伝統行事や新しい地域行事を通じて、地域住民全体の交流活動を活性化するための手立てを検討し、積極的に行事を企画・運営あるいは支援していきたいと考え、欲張った計画は立てず、目的・手だてともに明解な計画・運営を心がけた。具体的には、区長・老人会「喜楽会」・有志会・民生委員・小中学校PTA地区役員・食生活改善推進員の会「すみれの会」・地区の皆様方など多くの方々の協力を得て、各行事を次のように位置づけ、実施計画を立案した。

(1) 三世代交流活動・・・ゲートボール練習会、しめ縄作り、

三世代交流グランドゴルフ大会

- (2) あいさつ運動の推進・・・(日常的に)
- (3) 地区交流活動・・・・・・・・新田地区スポーツ祭、新田祭り、こどもみこし、
下村田地区納涼祭、新田地区体育祭
- (4) 児童交流活動・・・・・・・・朝の勉強会、きもだめし会、育成会バス旅行、
子ども忘年会、上毛カルタ練習会、料理教室
卒業祝いボーリング大会
- (5) 資源の再利用・環境保護・資源ゴミの回収(年3回)、サケを育てる運動

～～～ 活 動 実 績 ～～～

紙面の都合により一部ではあるが、2006年度の活動実績を報告する。

① ゲートボール練習会(5月27, 28 6月3, 4, 10日)

ゲートボール大会(6月11日)

目的：三世代交流活動

練習の指導を老人会のゲートボール部の方々にお願いした。昨年の大会では優勝を逃し、「今度は優勝したい。」と子どもたちの声が、そのため、熱の入った練習会となった。指導の中では厳しい言葉が飛び出すこともあるが、子どもたちも熟練者の言葉として受け止めることができ、良い関係ができてきていると感じられる練習会だった。その甲斐あって『優勝』でき、子どもたちや指導にあたった老人たちの笑顔を見ることができた。



6月11日 ゲートボール大会

② 夏休みのラジオ体操・勉強会(7月24, 25, 26, 27, 28日)

目的：児童交流活動

毎年恒例になっている朝のラジオ体操と早朝勉強会。親の代から始まり、もう何十年も伝統として続けられてきた。昔はラジオ放送にあわせて行っていたが、今はCDを使って登校時刻にあわせて行っている。子どもたちがラジオ体操のカードと夏休みの宿題を持って集会所に集まる。育成会の役員が交代で監督・指導に出るが、基本的には高学年の子が自分



朝のラジオ体操(夏休み)

より小さい子どもたちの面倒を見て、勉強を教えてあげることになっている。時には飽きてしまい、大人から注意を受けるような子も見られるが、それも大切な経験と思っている。学校や家庭とは違う環境で勉強するのは、地元ならではの貴重な伝統的事業であり、子ども時代の良い思い出として子どもたちの心の中に残ってくれるものと考えている。本年度も、毎日、ほぼ全員の参加があった。



朝の勉強会（夏休み）

③ 資源ゴミの回収（7月23日、11月23日、3月21日）

目的：資源の再利用・環境保護

この事業は、資源の再利用・環境保護の目的とともに、会の活動資金を得る上で大切な活動となっている。近年は育成会の役員が軽トラで収集にまわることが多いようですが、『子どもたちが主体となった活動を』と考え、昔ながらのリヤカーでまわるようにした。高学年の子が低学年の子の面倒をみながら収集にまわった。低学年の子どもたちも、新聞や雑誌・ダンボール・アルミ缶を一生懸命運ぶ姿が見られた。多くの家庭で「ごころうさま」「えらいね」と声を掛けられ、地域の人たちと、よい交流の機会になった。



リヤカーを使つての資源ゴミ回収



低学年から高学年まで、楽しく活動できた

④ 三世代交流グランドゴルフ大会（11月12日）

目的：三世代交流活動

低学年から高齢者までが共に楽しめるグランドゴルフ大会には、約80名の参加があり、地元の公園を会場で8グループに分かれて大会を実施した。天候にも恵まれ9時から始まった大会は、盛り上がりがあり、楽しい一日となった。

目的の三世代交流も、大勢の参加によりいい形で達成できた。



三世代を交えたグループで



みんなで食事をしながら表彰式

⑤ お正月しめ縄作り・子ども忘年会（12月24日）

目的：三世代交流活動

通常ならクリスマス会でケーキを…ですが、これは各家庭でやってもらい、こちらでは、しめ縄作りと子ども忘年会とした。世代交流・伝統行事の活性化を考えたからである。地域で受け継がれてきた文化「しめ縄作り」の継承をと、地区の老人に講師をお願いした。自分で作った物を正月に飾れるというのは、とても嬉しい。



しめ縄作り（参加者35名）

子ども忘年会に部では、スパゲティの食べ放題を企画した。有志会（昔、若者の集まり。今、親の世代）の協力があり、大いに盛り上がった。

⑥ 子ども料理教室（2月18日）

目的：児童交流活動

地元の「すみれの会（食生活改善推進員の会）」の方々の協力により、子ども料理教室をおこなった。料理ばかりでなく、栄養バランス、コミュニケーション、思いやり、団らん、笑顔で食事など大事なことを教えていただいた。高学年の子が低学年の子に包丁の使い方を教えて、にんじん・タマネギを真剣に切る姿が見られた。学年を超えた交流は、素晴らしい思い出になる。これも、この会ならではのものである。



手を切らないようにねえ

⑦ サケを育てる運動、稚魚放流会（3月4日）

目的：環境美化・資源の再利用

この事業は、サケの飼育を通して、自然の営み・生命の大切さや厳しさを知って、自然保護の精神を育むことを目的としている。12月10日に配られた卵は、5～8cm位の稚魚に成長し、まだ冷たい利根川の流れに放流されました。数年後には、産卵のために上って来るといふサケの姿を見てみたいと感じたのは、子どもたちばかりではないようであった。



稚魚の放流会

～～～ 活動の成果等 ～～～

地域住民相互の交流を目的として行事を企画・運営してきた。三世代交流グランドゴルフ大会、しめ縄作り等、楽しみにしている住民が多く、地区の行事として定着しつつある。

手作りの「子どもみこし」やリヤカーによる「資源ゴミの回収」の活動を通じて、在宅高齢者や幼児との交流を持つことができた。

育成会と有志会、老人会、他団体との交流の機会が多く持てた。ゲートボール練習会やしめ縄作り・子ども料理教室の指導者も、地域の高齢者の方々であった。そのおかげで、子どもと大人・高齢者との知り合いが増え、気軽に言葉が交わされるようになった。

子どもたちの安全確保の観点から、地域の子どもの顔を地域住民が知ること、そして、地域住民の顔を子どもたちが知ることが重要なことと考えて活動してきた。登下校時、子供たちと住民との挨拶や会話が増え、防犯上の環境が向上していることは間違いない。

我々の地区から、該当年度・その後も、子どもが関わる事件報告等は、1件もなかった。

事前の準備（子ども会育成会と他団体との調整、地域への広報活動等）の重要性を知った。今後、実施計画への取込みも、検討して行きたい。

～～～ おわりに ～～～

少子高齢化・核家族化が進み、ゆとり教育と言いつつ塾通いが進行し、地域の間人関係が希薄になりつつある中で、地域住民相互の交流が行われ、活性化が図られたことは、大変、有意義なことだと思う。

未来を担う青少年に期待が高まっている今、青少年の凶悪犯罪も度々報道されている。まずは、小さいうちから「良いことをすれば地域のみんなから褒められ、悪いことをすれば地域の大人たちから注意を受ける」という意識を育てていくことが大切であると思う。

また、今回の成果である地域文化の伝承・世代交流・地域の安全確保等、子ども会育成会を中心にした活動を継続し推進すると共に、他の地域でもそこにマッチした形で展開し、

次世代を担う子どもたちを育てるようお願いしたい。

地域の方々に積極的に協力をお願いしていくことが、三世代交流の鍵になると感じました。欲張った計画は立てず、目的・手だてとともに明解な計画・運営を心がけ、出来ることから始める。具体的には、地元の区長・老人会・青年会・民生委員・小中学校PTA地区役員など・地区の多くの方々の協力を呼びかけて、何か一つでも始めると、子供たちと住民との挨拶や会話が増え、防犯上の環境が向上していることは間違いのないと思う。